

様式1 平成 31年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

| | |
|-----------|--|
| 学校目標・経営方針 | 児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育課程における学習空白を補完する。そして、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。 |
|-----------|--|

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 中村 千尋

| | |
|----------|--|
| 本年度の重点目標 | 1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。 |
| | 2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。 |
| | 3 前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。 |

| | |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | C 不十分である。(4割以上) |
| | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 自己評価 | | | | | | |
|------|--|---|-------------------------------|---|--|--|
| 番号 | 評価項目 | 本年度の重点目標 | 具体的方策 | 令和元年度末評価(3月10日現在) | | |
| | | | | 方策の評価指標 | 自己評価結果 | 達成度 |
| 1 | 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。 | 合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画の作成、個別の指導計画作成により、適切な評価を行い、指導の改善を図る。 | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | 個別的教育支援計画を作成することにより、児童生徒に今必要な支援を検討することができた。前籍校との連携の中で活用することができた。 個別の指導計画については各学期・転入ごと作成し、全職員共通確認の元指導に当たった。評価の妥当性についても討議を経て、検証をすることで、次の計画につなげることができた。 | A | 個別的教育支援計画については障害の受け入れや回復への期待から作成に同意する保護者が少なかった。今後も説明を丁寧に行い、作成に取り掛かれるように準備をする。 指導計画については新学習指導要領の趣旨を踏まえて、実施・計画の進捗状況を確認し、必要に応じて修正を行う。また、ICT教材の活用や体験的学習の導入など、指導方法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 |
| | | | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | インターネットを使った調べ学習、パソコンでの資料の作成や提示等でICTを活用した。実際に使いながら、基礎的・基本的な内容の理解を深めていくことができた。また、各教科・領域で体験的学習を取り入れ、分かる喜びを実現できる工夫をした。 | A | 引き続き、児童生徒の実態把握を丁寧に行い、個々のねらいを検討及び教師間で共有していく必要がある。また在籍期間が短い児童生徒にも適切に支援できるように、情報共有をしながら、外部との連携も丁寧に行う。 |
| 2 | 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。 | 教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。 | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | 児童生徒につけさせたい力を全体計画の中で確認をし、学部・学級ごとに連携して実施した。児童生徒の実態に合わせて時期、内容を検討しながら学校生活全般で実施することができた。進路について児童生徒本人の希望、保護者との連携を重視して支援した。 | A | 道徳教育や日々の保健指導をおとして人とのかかわりについて指導した。また外部講師を活用し、保護者も交え、命について考える機会を設けた。 愛好作業や植栽活動にも取り組み、環境に対する意識や社会性を高めることができた。 |
| | | | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | 道徳教育や日々の保健指導をおとして人とのかかわりについて指導した。また外部講師を活用し、保護者も交え、命について考える機会を設けた。 愛好作業や植栽活動にも取り組み、環境に対する意識や社会性を高めることができた。 | A | 道徳教育全体計画に基づき、基本的な人のかかわりを学び、日常生活の様々な場面で全職員による継続した指導を実施する。 家庭や主治医と連携し、生活習慣の改善に努める。 |
| 3 | 前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実に努める。 | チーム学校として支援に努め、保護者や前籍校、病院、関係機関等とさらに連携を深め、児童生徒の教育の充実に努める。 | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | 諸会議を通じて、保護者や前籍校、病院、関係機関等と密に連携をとることができた。さらに、自立活動の実践研究を計画的に行い、全員で一つの方向性に向かった取り組みができた。また、授業力向上のための相互授業参観、北病院と連携による病理研修会を実施し、資質向上に努めた。 | B | 旭分校として、病弱教育に関わる専門性向上のために、教育だけでなく医療・福祉等の様々な分野の研修会を開催する。異職種参観も定期的に行い、教科の専門性の向上を目指す。 |
| | | | 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) | 教育相談、訪問支援、学校見学、研修支援等を適切に実施し、児童生徒の支援の充実に努める。 | 教育相談件数は減少したが、それぞれの児童生徒を取り巻く環境や本人と保護者のニーズに合わせた支援を考え、実施することができた。訪問支援では、各校の困りに対して分校の実践をもとに児童生徒の把握や指導方法について一緒に考えることができた。 | B |

| 学校関係者評価 | |
|----------------|---|
| 実施日(令和2年3月21日) | |
| 意見・要望等 | |
| 4 | 児童生徒一人ひとりに対し、丁寧にに関わり、各個人に合った教育を行っていると思う。 学校の外部発信としてHPの活用などで様々な関係機関とも連携を図っていく必要性を感じる。 学校内での教育は、安心感をもって楽しく自己有用感をもたせるように取り組んでいる様子がよくわかって良かった。 基本的な学校教育の方針や目標に応じて、児童生徒がのびのびと安心感を抱きながら教育を受けられていると感じている。 働き方改革を含め、職場環境の整備が求められる。教職員のストレスチェックの状況も含め、スクラップ&ビルドの精神で考えていくことが大切である。 |
| 3 | 近年、対応の難しい子が多い中、児童生徒の気持ちを引き出し、社会に参加できるような育成ができてきていると思う。 保護者アンケートについて、どの評価項目についても高い評価を得ている。課題点を具体的に探り、今後の運営に役立てていくことができるとよい。 学校生活に関する児童生徒のアンケートも良好な結果で安心した。 SNSの使い方や情報収集などが社会問題になっている。ネット依存などのお子さんへの研修も行う計画があるので、活用できるとよい。 発達障害の二次障害のお子さんの進路として職場を検討する際に本当に妥当であるか見極めることが難しい。 普通高校や通信制の高校や通級指導など学校教育の充実が図られている。進路につながるとうい。 |
| 3 | 前籍校が遠方であったり、協力が難しいところもある中、児童生徒のことを考え、支援をされていると思う。 児童生徒の障害特性を十分に理解し、保護者や医療、関係機関との連携を含めながら子供の自己肯定感や主体性を大切に育む教育が行われていると感じる。 旭分校では手厚く積極的に連携してもらっている。郡内のお子さんに関しては、児童相談所との関係作りもできてありがたかった。 うぐいすの杜学園も開校するため、これから富士見支援学校と連携が求められる。 旭分校の児童生徒が増えない理由について、詳細を見ていく必要がある。 学校の外部発信としてHPの活用などで様々な関係機関とも連携を図っていく必要性を感じる。 北病院の高校生支援のニーズがある。今後どのようにしていくか検討が必要である。 病弱特別支援学校の高等部教育の保障が山梨県には無い。今後検討を続けていく必要がある。 |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。